

肥料の三要素

野菜花き試験場

植物の生育に欠かせない必須元素は、その必要量から多量要素と微量要素に分けられます。

多量要素のうち、窒素、リン、カリウムは作物の必要量が多く、土壌中の量では不足しやすいため、肥料として重要な元素です。肥料の成分として、窒素以外は酸化物の形で示すことが慣行となっており、窒素N、リン酸 P_2O_5 、カリウム K_2O の三つの要素を、肥料の三要素とよびます。

当場では昭和13年から多量要素の三要素と堆肥施用の有無を組み合わせた長期連用試験を行っており、試験開始から今年で75年目となりました。これは国内でも有数の連用年数です。今年はキャベツを栽培したところ、三要素を施用しない区では、次の養分欠乏症が発生しました。

- ① 窒素を欠いた区は株が小さく葉色が薄い。
- ② リン酸を欠いた区は株がほとんど大きくなりず葉色が赤紫色を帯びる。
- ③ カリを欠いた区は葉脈間に白斑ができる。

各地の野菜産地では養分が十分充足しているため、このような欠乏症状は滅多に見ることができなくなりました。当場の長期連用試験は、三要素の大切さが一目でわかる、貴重な試験となっています。



長期連用ほ場の外観



キャベツのカリ欠乏症状

担当者	出澤文武	電話番号	0263-52-1148
-----	------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[野菜花き試験場ホームページへ](#)